

注意点1

音を滑らかにつなげるため
ハンマリングの基礎を再確認!

このフレーズで登場するレガート奏法とは、音と音を滑らかにつないで弾くこと。つまり、音の粒がきれいに揃っていないと、レガートとは言えないのだ。そこで、まずはハンマリングの正確な押弦に注意してもらいたい。写真は1小節目1拍目を写したもののだが、6弦7フレットを小指でハンマリングした時点で、3本指とも指板を押さえた状態になるように心がけよう(写真④)。続いて、各ハンマリングの音量・音質を揃えることにも注意すること。このためには、ハンマリング前に空中待機している指の高さをすべて同じにすると良い。うまく弾けない人は、クラシックスタイルのフォームで弾くことをオススメしたい。このようなフレーズでも、安定したフィンガリングで弾くことができるはずだ。



開放弦を鳴らす前に、3本指とも押弦準備をすること。



人差指によるハンマリング。中指の準備を忘れずに。



中指によるハンマリング。人差指を離さないように注意。



小指によるハンマリング。次の弦跳びの準備もしておこう。

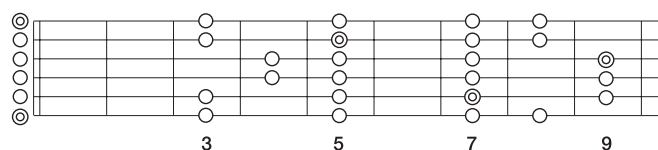
注意点2

レガート・マスターの道は
スケールを学ぶことにあり

各音を滑らかにつなげたレガートを弾くためには、事前にポジショニングを確認しておく必要がある。そのためには、そのフレーズで使われているスケールを把握しておくといいだろう。このフレーズでは、E ナチュラル・マイナーないしはG メジャースケールの一部が使用されている(図1)。ビギナー時代はTAB譜を目で追いながら弾いてしまうのは仕方がないが、スケールを理解すれば、ポジショニングやフレーズの全体像が、自然に見えてくるようになるので、早いうちにスケールの形を頭に描きながら弾けるようになってほしい。かつて筆者もスケールを覚えるのにとても苦労した。しかし、少しずつ学ぶことで、プレイの切れが良くなり、さらにギターを楽しめるようになったのだ。ぜひ積極的に覚えてもらいたい。

図1 Eナチュラル・マイナー・スケール

◎ ルート音=E



※開放弦を交えることで、幅広い音域となっている。

～コラム26～

地獄の戯れ言

ハンマリングには慣れてきたし、スケールも覚えた。しかし、なぜかレガートをきれいに弾けない……と、悩んでいる人もいるだろう。筆者の経験上、このパターンにハマる人の多くは、人差指の使い方を直すことで悩みが解消される。レガートを弾く際、ハンマリング&プリング音をしっかりと出そうとするため、指を立てようとしてしまう。確かにこれは間違いではない。ただし、人差指まで立ててしまうと、余弦のミュートができなくなってしまう、ノイズが発生し、レガートをきれいに鳴らせなくなってしまうのだ(写真⑤)。人差指で押弦する際は、必ず余弦のミュートも同時に行なうこと(写真⑥)。

ノイズレスなレガートを弾くための秘訣



人差指による4弦4fの押弦。指を立てるのは良いが、4弦以外のミュートができないので、ノイズが出てしまう。



同じく人差指による4弦4fの押弦。第一関節を少し曲げることで、指を立てつつも余弦のミュートを行なっている。